

1. 研究課題名：D-1006 熱帯林の REDD における生物多様性保護コベネフィットの最大化に関する研究

2. 研究代表者氏名及び所属：
北山 兼弘（京都大学）



3. 研究実施期間：平成 22～24 年度

4. 研究の趣旨・概要

気候変動枠組み条約における新たな枠組みとして REDD（発展途上国での森林減少・劣化に伴う温室効果ガス排出の抑制）が検討されています。REDD は森林を保護することにより温室効果ガス排出を抑制するものですが、生物多様性保護も同時に達成されると期待されます（生物多様性保護コベネフィット）。

本研究は、REDD を通じた熱帯林の生物多様性保護効果を最大化するために、1) 森林劣化率をレーザー技術によって評価する手法、2) 実務レベルで実施可能な生物多様性の広域モニタリング手法、を開発します。

これにより、REDD は炭素貯留と同時に生物多様性保護メカニズムとしても機能することになり、両者の調和的解決に向けて有効な手段となります。

5. 研究項目及び実施体制

- ① リモートセンシングによる森林の 3 次元構造とその変化の把握手法の開発
（(独)森林総合研究所）
- ② REDD における生物多様性の効果的モニタリング手法の開発（京都大学）

6. 研究のイメージ

